



2023年3月31日

各位



福富金属株式会社とのポジティブインパクトファイナンス契約の締結について

株式会社十六銀行（頭取 石黒 明秀、以下「当行」といいます。）および株式会社十六総合研究所（社長 高橋 義信、以下「当社」といいます。）は、福富金属株式会社（代表取締役 木下 裕樹）とポジティブインパクトファイナンス（以下「PIF」といいます。）契約を締結いたしましたので、下記のとおりお知らせします。

PIFは、当行および当社にて、事業者さまの活動が外部（環境・社会・経済）に与えるインパクト（影響）を評価（特定・分析）し、ポジティブなインパクトの創出とネガティブなインパクトの低減に資するKPIを設定のうえ、定期的なモニタリングを通じてその達成に向けた取組みを支援していくことを目的とする資金調達手段です。

当行および当社は、PIFを通じて事業者さまと共通価値の創造をはかり、ともに持続的な成長を目指してまいります。

記

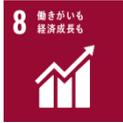
1. PIF契約概要

コース	ローンコース
融資金額	200百万円
資金使途	設備資金
期間	18年

2. 企業概要

所在地	愛知県大府市北崎町井田188番地
事業内容	自動車部品等金属プレス加工業
設立	1953年4月
資本金	23百万円

3. インパクト評価（要旨） ※ 詳細は後掲の「評価書」をご参照ください。

特定インパクト	K P I	関連SDG s
高品質な製品の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ I S O 9 0 0 1 (品質マネジメントシステム) 認証を維持・更新していく。 ・ 重大不具合0件・客先流出不良年間10件以下を維持していく。 	 
従業員の働きがい創出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2033年度までに「週休3日制」の勤務形態を導入する。 ・ 2023年度内に男性社員の育児休暇制度を新設する。 	
環境に配慮した事業活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2030年度における温室効果ガス排出量 (Scope 1, 2)を2021年度比42%削減する。 ・ 2023年度における自社工場から発生する廃油量を把握し、廃油量削減についての数値目標を設定する。 	   
安心安全な労働環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年の重大労働災害0件を維持していく。 ・ 2023年度における月平均残業時間を2022年度比で20%削減とする。 	

以上

【本件ご照会先：経営企画部 広報・IR室 TEL 058-266-2511】

福富金属株式会社
ポジティブインパクトファイナンス評価書

2023年3月31日



十六総合研究所は、十六銀行が福富金属株式会社（以下、「福富金属」）に対してポジティブインパクトファイナンス（以下、「PIF」）を実施するにあたって、同社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブインパクトおよびネガティブインパクト）を分析・評価した。この分析・評価は、国連環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド（モデル・フレームワーク）、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、十六総合研究所が十六銀行と共同で開発した評価体系に基づいている。



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

目次

1. 企業概要と理念、サステナビリティ	- 3 -
(1)福富金属の概要ならびに経営理念.....	- 3 -
(2)福富金属のサステナビリティ.....	- 5 -
2. インパクトの特定	- 6 -
(1)事業性評価	- 6 -
(2)バリューチェーン分析.....	- 7 -
(3)インパクトレーダーによるマッピング	- 8 -
(4)特定したインパクト	- 11 -
(5)インパクトニーズの確認	- 19 -
(6)ポジティブインパクトに対する追加性、十六銀行との方向性の確認.....	- 21 -
3. インパクトの評価	- 22 -
4. モニタリング	- 25 -
(1)福富金属におけるインパクトの管理体制	- 25 -
(2)当社によるモニタリング	- 25 -

1. 企業概要と理念、サステナビリティ

(1)福富金属の概要ならびに経営理念

【企業概要】

社名	福富金属株式会社
代表者	代表取締役 木下 裕樹
所在地	本社・大府工場：愛知県大府市北崎町井田 188 岡崎営業所：岡崎市橋目町字中新切 1
事業内容	自動車部品等金属プレス加工業
資本金	2,300 万円
設立	1953 年 4 月
従業員数	82 名（2022 年 3 月末）
売上高	1,363 百万円（2022 年 3 月期）

【企業沿革】

1953 年 4 月	名古屋市熱田区にてスクラップ回収事業者として設立
1959 年 2 月	小物プレス加工業務を開始
1982 年 7 月	本社を愛知県大府市梶田町へ移転
2002 年 2 月	ISO9001（品質マネジメントシステム）認証取得
2020 年 4 月	愛知県大府市北崎町にて本社工場竣工 本社を梶田町より移転

福富金属は、愛知県大府市に本社を構え、自動車用ブラケット、ルーフ、ドア等の金属プレス加工業を営んでいる。種類別に「プレス部門」「溶接部門」「レーザー加工・鋼板洗浄部門」の3部門体制を敷き、自動車の小物部品を中心に顧客の多種多様な加工ニーズに幅広く対応している。

同社は、①「責任感を持ち誇れる仕事をする」、②「すばやい行動力を身に付ける」、③「失敗を恐れず挑戦を恐れず進化し続ける」という経営理念に加えて、「良品だけをお客様へ」という合言葉を社全体で共有しており、これらの理念を具現化し「高品質・高精度・低コスト」の製品を生み出すため、コストダウンにつながる加工法や生産性の向上策について検討を重ねている。



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

●プレス部門



●溶接部門



(出所：同社 HP)

●レーザー加工・鋼板洗浄



(出所：同社 HP)

●プレス加工製品



(出所：同社 HP)

(2) 福富金属のサステナビリティ

同社は、事業領域を「環境」「社会」「経済」の大きく3つにカテゴライズし、SDGs 達成に向けた方針を定め、既に取り組みを開始している。

具体的には、自社事業から生じる機械油の洗浄ろ過装置の設置や端材の有効利活用等により環境負荷の低減に取り組むとともに、従業員の労働環境についても健康診断の実施や熱中症対策、社員食堂の拡充などによる、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。

「福富金属の SDGs 達成に向けた取り組み」(同社 HP をもとに十六総研にて作成)

<p>環境</p>	<p><SDGs 達成に向けた取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場や機械で使用する油の浄油に努め、廃油量を削減します。 ・資源リサイクル事業者と連携して生産端材の有効活用を行います。 ・コピー用紙の再利用やデジタル FAX 化により紙資源削減を図ります。 ・作業手袋のリユースを推進します。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>12 つくる責任 つかう責任</p> </div> </div>
<p>社会</p>	<p><SDGs 達成に向けた取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に 1 回、全社員の健康診断とストレスチェックを行い、心身ともに健康な会社を目指します。 ・全社員に対し、毎年インフルエンザワクチンの接種を行います。 ・夏季においてクールビズの導入、飲料水の配布等を行い社員の体調維持に努めます。 ・社内にスポーツジムを設置し社員の健康維持を促進します。 ・積極的な社内教育や資格取得支援等を行い、社員の継続的なスキルアップを応援します。 ・ケータリングサービスや昼食料金の一部補助等を行い、社員の健康を守ります。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>3 すべての人に健康と福祉を</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>4 質の高い教育をみんなに</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>8 働きがいも経済成長も</p> </div> </div>



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

16FG

<p>経済</p>	<p><SDGs 達成に向けた取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自社 BCP（事業継続計画）を定め、有事において迅速な社員の安否確認を図るとともにお客様への影響を最小限に押さえます。 ・支援施設との連携し、障害者の雇用を積極的に行います。 ・近隣の保育所と提携し、社員の子育て・働きやすさをサポートします。 ・「良品だけをお客様へ」を合言葉に ISO 規格に則した品質保証を提供します。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>10 人や国の不平等をなくそう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>13 気候変動に具体的な対策を</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p> </div> </div>
-----------	--

2. インパクトの特定

(1)事業性評価

同社事業の特徴として、多品種小ロットかつ高品質が求められる精度の高い加工ニーズにも対応できる点などが挙げられる。

具体的には、量産製品以外にも、顧客のニーズに合わせて試作から小ロット生産にも応じており、金型製作からプレス、溶接から表面処理など一貫体制による加工が可能である。

また、2次元、3次元 CAD、3次元レーザー加工機、シャーリング、大型鋼板洗浄機などの設備に加えて、生産効率の向上を図るため最新機械の導入や生産ラインの自動化により、高品質な製品を常時供給可能な体制づくりに努めている。

また近時においては、高い技術が要求される電気自動車やハイブリッド車に搭載されるバッテリーやインバーター、コンバーター関係のブラケット類の組付け加工の他、新たにガス機器や給湯機などの住宅設備部品の加工案件なども受注しており、自動車産業だけでなく幅広い産業に対応できる技術力を持つ証左として、同社に寄せられる信頼の高さが窺えるものである。

(2)バリューチェーン分析

同社は自動車産業のバリューチェーン内で、「Tier1 メーカー」に位置する。

鉄鋼メーカー等より、原料となる鉄やステンレス等を仕入れ、自社で金属プレス加工を施しブラケットやクリップなどの小物部品を自動車メーカーに直接納入している。また、ルーフ、ドア等の大物部品の一部加工も手掛けている。

これら自動車部品の小物板金加工においては60年以上の実績を有しており、自動車メーカーとの厚い信頼関係を構築している。

●バリューチェーン図



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

(3)インパクトレーダーによるマッピング

先述のバリューチェーン分析の結果をもとに、インパクトマッピングを実施する。

同社並びに同社の川上・川下の事業を国際産業標準分類（ISIC）上の業種カテゴリに適用させた上、UNEP FI が提供するインパクトレーダーを用いて「ポジティブインパクト」（以下 PI）と「ネガティブインパクト」（以下 NI）を想定する。

同社の事業については「金属の鍛造、プレス、打ち抜き及び圧延成形業並びに粉末冶金業（ISIC:2591）」「金属の処理・塗装・機械加工業（同 2592）」「自動車部品及び付属品製造業（同 2930）」を、同社の川上・川下の事業については「第一次鉄鋼製造業（同 2410）」「自動車製造業（同 2910）」をそれぞれ適用し、発生するインパクトの検証を行った。

◎：主要カテゴリ ○：関連カテゴリ

国際産業標準分類 インパクトカテゴリ	川上の事業		同社の事業						川下の事業	
	【2410】 第一次鉄鋼製造業		【2591】 金属の鍛造、プレス、打ち抜き及び圧延成形業並びに粉末冶金業		【2592】 金属の処理・塗装・機械加工業		【2930】 自動車部品及び付属品製造業		【2910】 自動車製造業	
	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI
水										◎
食料										
住居	○									
健康・衛生		○								○
教育										
雇用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エネルギー										
移動手段							○	○	◎	○
情報										
文化・伝統										
人格と人の安全保障										
正義・公正										
強固な制度・平和・安定										
水（質）		○		○		○		○		○
大気		○		○		○		○		○
土壌		◎						○		○
生物多様性と生態系サービス										
資源効率・安全性		◎		○		○		◎		◎
気候		○		○		○		◎		◎
廃棄物		○		○		○		○		○
包括的で健全な経済	○		○		○		○		○	
経済収束							○		○	

【川上の事業について】

川上の事業においては、特に重要度の高い NI について検証を加える。

川上の事業においては、「土壌」「資源効率・安全性」のカテゴリにおいて、特に重要度の高い NI が発現する。UNEP FI では、鉄製品やステンレス製品製造の際に、土壌汚染や過度なエネルギー利用等の NI が発現すると指摘される。

同社は、仕入先企業と密にコミュニケーションをとり、サプライチェーン全体で環境関連法規の遵守をすることや、必要となる材料を予め綿密に計算することによって材料ロスを極限まで低減させ、この NI の低減に努めている。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「7.3:エネルギー効率の改善率を増やす」
- ・「12.5:廃棄物の発生を減らす」

【同社の事業について】

「雇用」のカテゴリにおいては、労働によって従業員の生活が支えられるという PI と、金属加工の際に発生する有害物質により従業員の健康状態が脅かされるという NI が発現する。同社は製造ラインの自動化等によって、この NI を削減する取組みを行っている。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「8.5:雇用と働きがいのある仕事、同一労働同一賃金を達成する」
- ・「8.8:労働者の権利を保護し、安全・安心に働けるようにする」

「移動手段」のカテゴリにおいては、同社の製品によって輸送システムへのアクセスが確保されるという PI と、自動車以外の移動手段の利用が減少するという NI が発現することとされるが、このうち NI については、自動車の小物部品の加工を手掛ける同社事業との関係性が希薄であると判断し、検証を省略する。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「11.2:交通の安全性改善により、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する」

「水（質）」「大気」「土壌」「資源効率・安全性」「気候」「廃棄物」等の環境的側面のカテゴリにおいては、鋼線の製造の際に、水質汚濁、温室効果ガスの発生、土壌汚染、大気汚染、過度なエネルギー利用、廃棄物の発生といった NI の発現が想定される。同社は、廃油の適切な処理やリサイクルを推進することにより、これらの NI を削減している。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「6.3:様々な手段により水質を改善する」



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

- ・「7.3:エネルギー効率の改善率を増やす」
- ・「12.5:廃棄物の発生を減らす」
- ・「13.3:気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する」
- ・「15.1:陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」

「包括的で健全な経済」「経済収束」のカテゴリにおいては、同社の事業活動によってバリューチェーン上の経済活動が支えられるというPIが発現する。

SDGsでは、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「9.1:経済発展と福祉を支える持続可能で強靱なインフラを開発する」

【川下の事業について】

川下の事業においては、同社と関連性が高いインパクトについて検証を加える。

同社の川下産業で発生するインパクトについては、「移動手段」のカテゴリで発生するPIが同社と関連性が高く、同社が自動車産業のバリューチェーンを支えることによって安全な移動手段提供に寄与しているものと考えられる。

SDGsでは、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「11.2:交通の安全性改善により、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する」

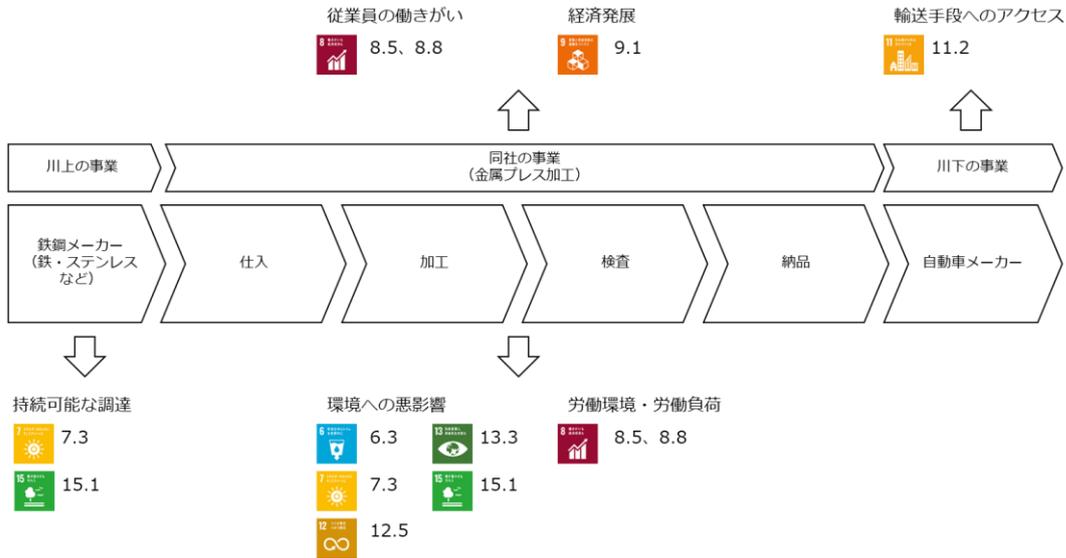


人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

(4)特定したインパクト

下図は「バリューチェーン分析」「インパクトマッピング」の結果を踏まえて、同社のバリューチェーンが与えるインパクトを可視化したものである。



以上を踏まえて同社のインパクトを下記のように特定した。

- 高品質な製品の提供
- 従業員の働きがい創出
- 環境に配慮した事業活動
- 安心安全な労働環境の整備



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

■ 高品質な製品の提供

同社では、「良品だけをお客様へ」を合言葉に ISO 規格に則した品質保証の徹底を図る。

具体的には、「重大不具合 0 件」「客先流出不良年間 10 件以下」という品質目標を掲げ、これを実現するために、各チームや従業員それぞれが目標を設定することによって、不具合品・不良品の根絶を図っている。

なお、チームごとの品質目標は下記の通りである。

(※下表は同社提供資料をもとに十六総研にて作成)

営業グループ 2022 年度品質目標

既存顧客を大事にして、また新規顧客を獲得する。

1. ゼロ災害の継続。「あせらずゆとりをもって」行動する。
2. 顧客にいつも感謝される営業をする。
3. 既存顧客から継続受注を第一に進め、また新規顧客を獲得する。
4. 顧客との情報共有を密に、その情報を社内に展開する。

製造グループ技術チーム 2022 年度品質目標

作業員教育の強化で、ルール違反ゼロ！

【取組内容】

1. 社内トライ後の現場作業員への教育。
2. 作業指導表・条件管理表の改定、作成を行い、ルールを明確化。

製造グループ生産管理チーム 2022 年度品質目標

作業員教育の強化で、ルール違反ゼロ！

【取組内容】

1. 置き場と物流の管理を徹底し、工程飛び・異品納入を防ぐ。
2. ハンディーターミナルによる、新しい払い出し作業のルールの教育と管理の徹底。

製造グループプレスチーム 2022 年度品質目標

作業員教育の強化で、ルール違反ゼロ！

【取組内容】

1. 不具合集計より分析した「弱み」に対し対策を打つ。
2. 現場監督の強化により、ルール遵守率 100%を継続する。



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

製造グループレーザーチーム 2022 年度品質目標

作業教育の強化で、ルール違反ゼロ！

【取組内容】

1. 品質チェックシートを活用し、不良件数 0 の継続
2. 新人や応援者の作業教育を怠らず、業務の管理を徹底する。
3. 客先と密に連携をとり、より良い品質を作り上げる。

製造グループ溶接チーム 2022 年度品質目標

作業教育の強化で、ルール違反ゼロ！

【取組内容】

1. ルール違反による不具合の撲滅。違反があれば互いに注意し、ルールを当たり前を守る現場作り。
2. 新人作業員や応援作業員（※久しぶりに作業をする者も含む）に対し初期教育を徹底する。

製造グループ品質管理チーム 2022 年度品質目標

作業教育の強化で、ルール違反ゼロ！

【取組内容】

1. 新規立ち上がり部品や不具合再発防止の初期管理を実施し、ルール違反不具合の流出を防止・撲滅する。
2. 各チーム毎に不良率を開示し、不良発生率の低減活動を実施する。

同社では、今後も ISO 規格に即した品質改善活動を行い、高品質な製品の供給に努めることで、地域の基幹産業である自動車産業を支え、ひいては地域経済の発展に貢献していく方針としている。

このインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは、「移動手段」「包括的で健全な経済」のカテゴリに該当し、社会的・経済的側面において PI を拡大すると考えられる。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「9.1:経済発展と福祉を支える持続可能で強靱なインフラを開発する」
- ・「11.2:交通の安全性改善により、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する」



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

■ 従業員の働きがい創出

同社では、従業員のワークライフバランスやスキルアップを推進し、働きがいのある職場環境づくりと福利厚生に努めてきた。具体的には、社内教育や従業員の資格取得支援の他、事業所におけるインフルエンザ予防接種による衛生面のケアやトレーニングジムの設置による健康増進などが挙げられる。

同社のこうした取組みは公的にも高く評価されており、2020年には大府市より「大府市働きやすい企業表彰」¹のうち、「ファミリー・フレンドリー部門」「健康推進部門」「ダイバーシティ部門」の全ての部門で表彰を受けた。また、2022年には日本健康会議より「健康経営優良法人（中小規模法人部門）」²の認定を受けている。

今後は、下記の「10年 VISION」の通り、従業員が楽しく働くことができる環境の整備に努めていく方針であり、具体的には、時間外労働の削減、男性社員の育児休暇取得の推進や、週休3日制の勤務形態の導入等を検討している。

10年 VISION 「楽しんで良いものをつくる」

- 創る = 人
- 作る = 部品
- 安心できる教育システムがある
- （提案・挑戦）期待を超える
- 良品だけをお客様へ
- 実績に基づく評価
- 週休3日制
- 全自動化

このインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは、「移動手段」「包括的で健全な経済」のカテゴリに該当し、社会的・経済的側面において PI を拡大すると考えられる。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

¹ 大府市働きやすい企業表彰制度：従業員のワークライフバランスの実現に向けて働きやすい魅力ある職場づくりに取り組む企業を大府市が表彰する制度。表彰対象は、「ファミリー・フレンドリー部門」「健康経営部門」「ダイバーシティ部門」の3部門に分かれている。

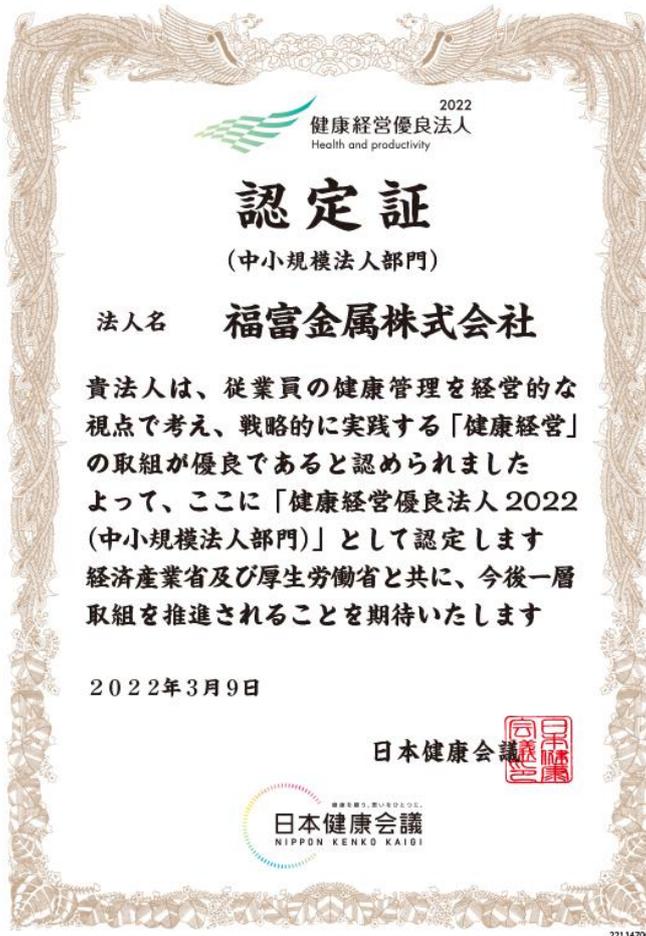
² 健康経営優良法人認定制度：地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度。



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

- ・「8.5:雇用と働きがいのある仕事、同一労働同一賃金を達成する」
- 「健康経営優良法人認定（中小規模法人部門）」認定証



(出所：同社 HP)



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

■ 環境に配慮した事業活動

同社では、自社事業から生じる様々な環境負荷を認識し、その低減活動に尽力している。

具体的には、2021 年度より自社事業から生じる温室効果ガスの排出量の測定および排出量の削減に向けた取組みを開始している。太陽光パネルの設置や、営業車更新のタイミングでのエコカー（電気自動車・プラグインハイブリッド車など）の導入、加工設備更新のタイミングでの高効率設備の導入などの取組みを行い、排出量の削減に向けた活動を行っている。

また、機械油の洗浄ろ過装置を設置し、廃油量の削減にも積極的に取り組んでいる。

その他にも、生産端材のリサイクル、ペーパーレスの推進などに取り組み、様々な角度から自社事業から生じる環境負荷を低減させている。

今後も、主に温室効果ガスの排出量と廃油量について、社内で数値管理を行うことによって、環境負荷の低減に取り組む方針としている。

このインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは、「水（質）」「資源効率・安全性」「気候」「廃棄物」のカテゴリに該当し、環境的側面において NI を緩和すると考えられる。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「6.3:様々な手段により水質を改善する」
- ・「7.3:エネルギー効率の改善率を増やす」
- ・「12.4:化学物質や廃棄物の適正管理により大気、水、土壌への放出を減らす」
- ・「13.3:気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する」

■ 安心安全な労働環境の整備

同社では、先述の品質目標と同様に製造グループの各チームにて「安全目標」を定め、職場での災害ゼロに努めている。製造現場の一人ひとりが安全意識を持ち、「安全な現場をつくる」という使命を果たしている。

（※下表は同社提供資料をもとに十六総研にて作成）

製造グループ技術チーム 2022 年度安全目標

整理整頓と健康管理を徹底して安全で安心な職場を作り災害 0 とする。

【取組内容】

1. 保管倉庫の整理整頓・安全対策を行い、災害を防止する。
2. 工場の安全パトロールを行い、改善提案や危険の周知を行い、災害を防止する。



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

製造グループ生産管理チーム 2022 年度安全目標

整理整頓と健康管理を徹底して安全で安心な職場を作り災害 0 とする。

【取組内容】

1. ラジオ体操・服装チェック・作業前点検を徹底し、万全の状態で作業できる様に心掛ける。
2. リフト作業・棚入れ作業時の、製品転倒 0 件を目指す。

製造グループプレスチーム 2022 年度安全目標

整理整頓と健康管理を徹底して安全で安心な職場を作り災害 0 とする。

【取組内容】

1. 各エリア、毎終業時の 2S を徹底して綺麗な状態を保つ。
2. 備品や工具の置場を明記し、管理する。
3. 基本作業の教育を定期的に繰り返し行い無災害必達！

製造グループレーザーチーム 2022 年度安全目標

作業教育の強化で、ルール違反ゼロ！

【取組内容】

1. 常に安全を最優先し、危険な作業や場所の改善に取り組む。
2. 工具の整理整頓をし、安全で綺麗な職場づくりの徹底。
3. リフト作業時は声かけをして周囲の安全確認を必ず実施し、人や物との接触を未然に防ぐよう心がける。

製造グループ溶接チーム 2022 年度安全目標

作業教育の強化で、ルール違反ゼロ！

【取組内容】

1. 現場内を“整理”し、ひっかけ・落下・つまずき等の現場内のヒヤリハットを減らしていく。
2. 物の定置化がされ常に、“整頓”された作業場で焦りからくる事故を防止する。
3. 誰が何処の作業場に入っても気持ちよく安全に作業が始められるように“清掃”を徹底する。

製造グループ品質管理チーム 2022 年度品質目標

作業教育の強化で、ルール違反ゼロ！

【取組内容】

1. 始業時・終業時の 2S を実施し、仕掛の無い状態で終業できるようにする。



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

2. 暑すぎず、寒すぎない環境をつくり健康維持を心掛ける。

また、製造ラインの自動化を進めることで、より一層安全な労働環境の整備に努めるとともに、従業員の時間外労働の削減にも努めていく方針としている。

このインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは、「雇用」のカテゴリに該当し、社会的側面において NI を緩和すると考えられる。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「8.5:雇用と働きがいのある仕事、同一労働同一賃金を達成する」

(5)インパクトニーズの確認

①日本におけるインパクトニーズ

同社の売上高の大半が日本国内におけるものである。国内における SDG インデックス&ダッシュボードを参照し、そのインパクトニーズと同社のインパクトとの関係性を確認した。

本 PIF において特定したインパクトに対応する SDGs のゴールは、以下の 7 点である。

- ・「6:すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」
- ・「7:すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
- ・「8:包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
- ・「9:強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
- ・「11:包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
- ・「12:持続可能な生産消費形態を確保する」
- ・「13:気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」

国内における SDG ダッシュボード上では、「12」「13」に関しては「大きな課題が残る」、「7」に関しては「重要な課題が残る」、「6」「8」「11」に関しては「課題が残る」とされており、同社の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組みなどが、国内のインパクトニーズと一定の関係性があることを確認した。



(出所：SDSN)

②愛知県におけるインパクトニーズ

同社が、地元愛知県の基幹産業である自動車産業との関りが深い事業者であることを踏まえ、「愛知県 SDGs 未来都市計画（第2期）」を参照し愛知県内における SDGs 達成に向けた課題を確認した。下記の通り、力強い産業づくりの推進やカーボンニュートラルの実現などを課題として掲げており、同社が高品質な部品を自動車産業に供給すること、温室効果ガス排出量の削減に取り組むこと、などの点が愛知県内におけるインパクトニーズと一定の関係性があることを確認した。

「愛知県 SDGs 未来都市計画（第2期）」より今後取り組む課題を抜粋

（経済面）

○ デジタル化の急速な進展に伴って、産業構造の大きな変化が見込まれる中、自動車産業を始め、あらゆる産業において、イノベーションを巻き起こす力強い産業づくりの推進が必要。

（社会面）

○ 今後、人口減少局面に転じるとともに、急速に高齢者が増加。すべての人が参画し、生涯にわたって活躍できる社会を築いていくことが課題。

○ 若年女性の東京圏への流出超過が拡大する中で、持続的な発展のためには、若年女性の流入・定着が重要で、企業等で女性が活躍できる環境をつくっていくことが課題。

（環境面）

○ 都市化や産業活動により失われた各地域の生態系を再生・回復、維持していくためには、多様な主体が連携して生態系を守っていくことが課題。また、我が国随一の産業県として、企業等と連携しながらカーボンニュートラルの実現にも取り組んでいくことが重要。



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

(6)ポジティブインパクトに対する追加性、十六銀行との方向性の確認

ここでは特定した PI について追加性があること、十六銀行の SDGs の取組みと方向性が同じであることを確認する。本 PIF で特定した PI は「高品質な製品の提供」「従業員の働きがい創出」の 2 点である。

「高品質な製品の提供」については、「良品だけをお客様へ」を合言葉に ISO 規格に則した品質保証の徹底に努めていく。

「従業員の働きがい創出」については、従業員が楽しく働くことができるように様々な角度から労働環境の整備に努めていく。

以上から、上記の PI は SDGs を達成するために、効果が期待できる取組みであり、追加性があるものと評価できる。

十六フィナンシャルグループでは、「十六フィナンシャルグループ SDGs 宣言」の中で「地域社会の活性化」「地域社会の持続的発展」「多様な人材の活躍推進」「環境保全と気候変動対策」「ガバナンスの高度化」の 5 つを SDGs 達成に向けた重点課題（マテリアリティ）としている。

本 PIF で特定したインパクトは「高品質な製品の提供」については「地域社会の持続的発展」と、「従業員の働きがい創出」については「多様な人材の活躍推進」と、それぞれ方向性が一致する。

以上から、本 PIF の取組みは追加性のある PI 創出支援を行うものであり、その本源的目的との合致を確認したうえで SDGs 達成に向けた資金需要と資金供給とのギャップを埋めることを目指すものである。



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

3. インパクトの評価

ここでは、特定したインパクトの発現状況を今後も測定可能なものにするため、先に特定したインパクトに対し、それぞれに KPI を設定する。

■ 高品質な製品の提供

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面においてポジティブインパクトを拡大 経済的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクト・カテゴリ	「移動手段」「包括的で健全な経済」
関連する SDGs	 
内容・対応方針	・安全性に配慮した高品質な製品を提供する。
KPI	・ISO9001（品質マネジメントシステム）認証を維持・更新していく。 ・重大不具合 0 件・客先流出不良年間 10 件以下を維持していく。

■ 従業員の働きがい創出

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクト・カテゴリ	「雇用」
関連する SDGs	
内容・対応方針	・ワークライフバランスの推進により従業員の働きがい創出に努める
KPI	・2033 年度までに「週休 3 日制」の勤務形態を導入する。 ・2023 年度内に男性社員の育児休暇制度を新設する。

■ 環境に配慮した事業活動

項目	内容
インパクトの種類	環境的側面においてネガティブインパクトを緩和
インパクト・カテゴリ	「水（質）」「資源効率・安全性」「気候」「廃棄物」
関連する SDGs	   
内容・対応方針	・製品製造に係る温室効果ガス排出量を削減する。 ・廃油量の削減を推進する。
KPI	・2030 年度における温室効果ガス排出量(Scope1,2)を 2021 年度比 42%削減する。 ・2023 年度における自社工場から発生する廃油量を把握し、廃油 量削減についての数値目標を設定する。

■ 安心安全な労働環境の整備

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面においてネガティブインパクトを緩和
インパクト・カテゴリ	「雇用」
関連する SDGs	
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクアセスメントや安全点検を通じて労働災害の防止に努める。 ・時間外労働の削減に努める。
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年の重大労働災害 0 件を維持していく。 ・2023 年度における月平均残業時間を 2022 年度比で 20%削減とする。

4. モニタリング

(1)福富金属におけるインパクトの管理体制

同社では、川崎製造グループ長を中心に自社業務の棚卸を行い、本 PIF におけるインパクトの特定並びに KPI の策定を行った。

また、同社では SDGs 推進に向けた若手社員中心のプロジェクトチームを結成しており、今後については、プロジェクトチームを中心に SDGs の推進、ならびに本 PIF で策定した KPI の管理を行っていく方針である。

【モニタリング体制】

統括責任者	代表取締役 木下 裕樹
プロジェクトリーダー	取締役 製造グループ長 川崎 泰輔
プロジェクトチーム	製造グループ 技術チーム チーフ 石崎 歆基 製造グループ 生産管理チーム 中川 裕基 製造グループ プレスチーム サブチーフ 花井 敏弘 営業グループ 村雲 亮 製造グループ 品質管理チーム 林 大貴 製造グループ 技術チーム 田 杭侖

(2)当社によるモニタリング

本 PIF で設定した KPI および進捗状況については、同社と十六銀行、十六総合研究所の担当者が定期的な場を設けて情報共有する。少なくとも年に 1 回実施するほか、日々の情報交換や営業活動を通じて実施する。



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

【留意事項】

1. 本評価書の内容は、十六総合研究所が現時点で入手可能な公開情報、福富金属から提供された情報や同社へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況进行评估したものであり、将来における実現可能性、ポジティブな成果等を保証するものではありません。
2. 十六総合研究所が本評価に際して用いた情報は、十六総合研究所がその裁量により信頼できると判断したものであるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。十六総合研究所は、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、および特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証をするものではありません。
3. 本評価書に関する一切の権利は十六総合研究所に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）、または使用する目的で保管することは禁止されています。



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所